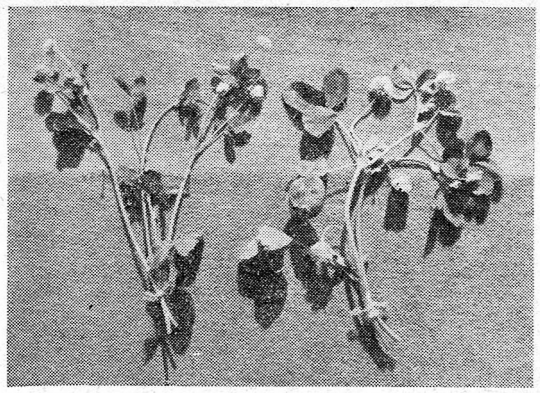
数年後には更に多くの経済的価値ある倍数化植物が現出することであろう。

牧草類についても草の巨大化は望ましいことであり、牧草類の倍数体の研究は欧米諸国はもちろんわが国でも行われており、スエーデンではすでに赤クロバー四倍体が実際に利用されているといわれており最近はわが国でもフエスク類の四倍体、白クロバー四倍体の育成に成功している。弊社で目下増殖中のものにアルサイククロバーの四倍体がある。これは写真で見るとおり従来のアルサイククロバーより茎葉、花、種子ともに巨大であつて、生育良好収量も多い。ここ一両年のうちに採種圃を増加して耐湿、耐酸、多収なアルサイククロバーとして広く利用をねがいたいと考えているものである。（筆者・雪印種苗上野幌育種場長）



左　在來のアルサイククロバー　右　四倍體アルサイククロバー

雪印の「種苗名稱登錄」南瓜

美園デリシャスの作り方

中原忠夫

美園（みその）デリシャス南瓜は弊社藤の沢育種場において、永年に亘り淘汰改良されたもので、昭和二十九年六月三日、農林省種苗名称登録第七三号を以て登録決定の栄をかち得たものであります。

特質　美園デリシャス南瓜はデリシャス南瓜より豊産で一株五～六果時に十数果収穫されるものあり、しかも着果習性が主枝上十節～十四節目より連続若しくは二～三節おきに着果するので、五～六番果まで食味は全く変らずよく充実して決してウラナリにはならないなお五～六番果の着果部位は根元から十二尺内外である。

果の形状は従来のものよりやや小型で七～八〇〇匁から一貫匁内外、形は肩張りの良いハート形で良く揃い、市場出荷用としても大きさが手頃なので好評を得ている。外皮は暗緑色で軟かく、肉質は澱粉質に富みいわゆるポクポク質で橙黄、北大園芸教室における分析結果を見ても食味の良いことがうかがわれる。

美園デリシャス（旧名節成デリシャス）**分析表**

区分	水分含量	全糖量	澱粉量
美園デリシャス	七七・九八％	四・九％	三・九〇％
デリシャス	八二・七七％	五・六六％	五・九五％

草勢はデリシャスより少しこぶりで葉も幾分小さい。

本種は西洋南瓜（マキシマ）なので暖地における栽培は、着果性は余り変りないようであるが耐暑性が落ち、味の点については他品種による長野農試で行つた高冷地産と低地産のものとを比較分析した結果を見ると澱粉が少く、北海道のような食味は得られないと思われるが本品種は農林省平塚農試の試作結果においては食味良好と頗る好評であつた。

産地と南瓜果實分析結果（長野農試）

品種名	産地（海抜）	水分	固形物	全糖	澱粉	粗蛋白質
ハッバード	一〇〇〇米	八〇・七三％	一九・二七％	四・八五％	八・七五％	一・八〇％
	七〇〇	八五・二四	一四・六五	五・六八	六・六七	一・八〇
	四〇〇	八九・六八	一〇・三二	五・六八	四・九九	〇・九六
デリシャス	一〇〇〇	八一・九九	一八・〇〇％	四・八五	八・二一	一・三七
	七〇〇	八八・〇〇	一二・九九	四・九六	四・八三	一・三三
	四〇〇	八五・八四	一四・一六	六・三三	六・三〇	〇・九五

栽培法

栽植距離　本種は多着果性であるから、従来の栽培より幾分畦間を拡めて植えると良い。従来の栽培法によると、六尺～九尺角の鞍に二～三株立としているが、一～二番花が開花しないうちに蔓が伸び交つて着果が悪く、一株一～二箇ぐらいの収穫しか得られていない。さらに最近のように農薬の使用が多くなつて蜂が少くなつて来ると、花粉の人工媒助を行う必要があり、枝が混むと媒助も思うように行えないので、六尺×十二尺で一鞍一株立とするのが良いと考えられる。

摘心整枝　洋種は一般的に無摘心栽培が行われている。なお移植栽培の場合は本葉五～六枚で主枝を摘み小蔓三本ぐらい伸す方法も行われている。本種は普通の作り方をする場合、主枝上に着果せしめた方が良い。主枝上の着花は小蔓よりも五～六日早く、主枝の勢が強いので無摘心の方が有利である。そして根元近くから出た小蔓の内勢力の良い蔓を二本くらい残すようにするとその蔓に一～二果は結実させうる。始め